

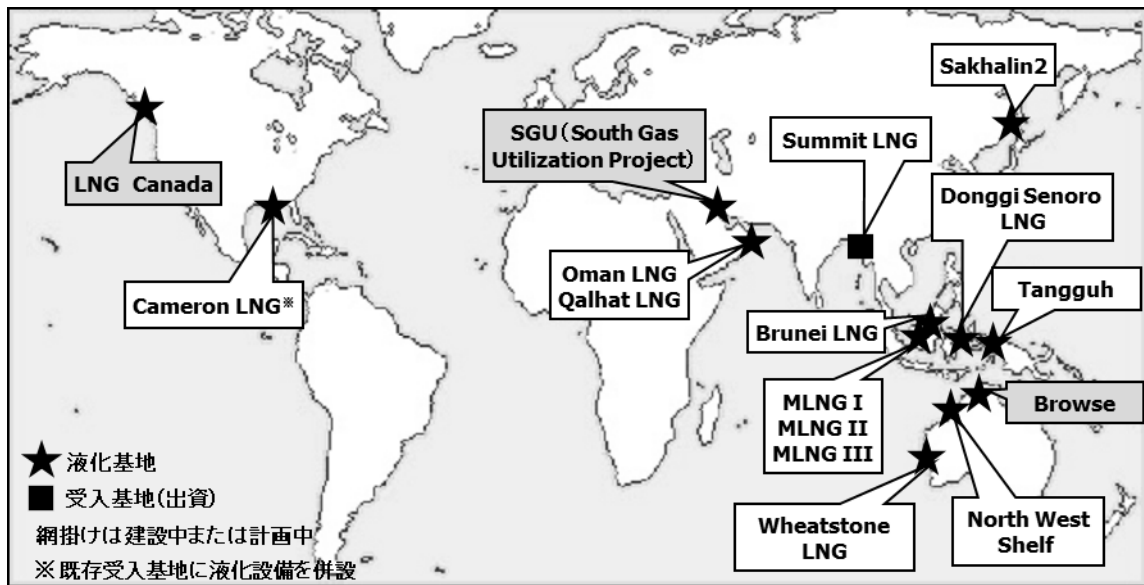
23. 三菱商事

(1) 企業概要

三菱商事は、世界約 90 の国・地域に広がる拠点と約 1,700 の連結事業会社と協働しながら、天然ガス、総合素材、石油・化学、金属資源、産業インフラ、自動車・モビリティ、食品産業、コンシューマー産業、電力ソリューション、複合都市開発の 10 グループ体制でビジネスを展開している。

同社の天然ガス事業は、1969 年に日本初となるアラスカから LNG 輸入に関与して以降、約 50 年にわたり、日本における輸入代行から、液化プラントへの出資、上流への参画、輸送、トレーディング等へと事業範囲を拡大しながら発展してきた。近年ではさらに、エネルギーインフラへの投資や船舶用 LNG 燃料供給事業等を通じて、天然ガス需要の創出・拡大に寄与している。なお、2019 年現在で同社の石油・ガス上流持分生産量は 24.4 万 boe/d（内、天然ガス生産量は 20.2 万 boe/d）、2019 年 12 月末時点の石油・ガス埋蔵量は 18.2 億 boe となっている。

三菱商事の LNG 液化・受入基地図



(2) LNG 関連

三菱商事は、ブルネイやマレーシア、インドネシア、豪州、オマーン、ロシア、米国において、現在 12 件の LNG プロジェクト（生産中）に出資している。2019 年 5 月に LNG 生産を開始した Cameron LNG が加わったことで、同社が出資する LNG プロジェクトの LNG 総生産能力は年間約 1 億トンに増加し、その内の三菱商事の持分も 1,212 万トンに増加している。これら LNG の大宗は日本の需要家へ販売されている。建設中の Tangguh 第 3 液化系列と LNG Canada の立ち上がりに伴い、LNG 総生産能力は年間 1.181 億トン、三菱商事の持分は 1,460 万トンまで積み上がる。

IV. 主要企業別 LNG 事業動向

三菱商事が出資する LNG プロジェクト

国名	プロジェクト名 (Train名)	液化能力 (万トン/年)	生産開始	出資者	主要仕向地
ブルネイ	Brunei LNG (Lumut)	720	1972年	Brunei LNG(ブルネイ政府 50%, Shell 25%, 三菱商事 25%)	アジア
マレーシア	MLNG I (Satu) (Train 1-3)	840	1983年	MLNG (Petronas 90%, Sarawak州政府 5%, 三菱商事 5%)	アジア
	MLNG II (Dua) (Train 4-6)	960	1995年	MLNG Dua (Petronas 80%, 三菱商事 10%, Sarawak州政府 10%)	アジア
	MLNG III (Tiga) (Train 7, 8)	770	2003年	MLNG Tiga (Petronas 60%, Sarawak州政府 25%, ENEOS10%, DGN 5% (三菱商事/JAPEX=4:1))	アジア
オーストラリア	North West Shelf (Train 1-2)	500	1989年	Woodside 16.7%, Shell 16.7%, BHP 16.7%, bp 16.7%, Chevron 16.7%, MIMI(三菱商事 50%, 三井物産50%) 16.7%	アジア
	(Train 3)	250	1992年		
	(Train 4)	440	2004年		
	(Train 5)	440	2008年		
	Wheatstone LNG (Train 1, 2)	890	2017年	Chevron 64.136%, Woodside 13%, PEW 8% ^{※1} , KUFPEC 13.4%, 九州電力 1.464%	アジア
Browse (NWS LNGへの供給を 計画中)	N.A.	2026-2027 (計画中)	Woodside 30.60%, Shell 27.00%, bp 17.33%, MIMI ブラウズ(三菱商事 50%, 三井物産 50%) 14.40%, PetroChina 10.67%	N.A.	
オマーン	Oman LNG (Train 1, 2)	710	2000年	Oman LNG (オマーン政府 51%, Shell 30%, Total 5.54%, KOREA LNG 5.0%, 三菱商事 2.77%, 三井物産 2.77%, Partex 2.0%, 伊藤忠商事 0.92%)	アジア
	Qalhat LNG (Train 3)	330	2005年	Qalhat LNG (オマーン政府46.84%, Oman LNG 36.8%, Union Fenosa Gas (ENI 50%, Naturgy 50%) 7.36%, 三菱商事 3%, 伊藤忠商事 3%, 大阪ガス オーストラリア 3%)	アジア、欧米
インドネシア	Tangguh (Train 1, 2)	760	2009年	bp 40.22%, MI Berau B.V.(三菱商事 56%, INPEX 44%) 16.3%, CNOOC 13.9%, 日石ペラウ石油開発 12.23%, KG Berau Petroleum 8.56%, KG Wiriagar 1.44%, エルエヌジージャパン 7.35%	アジア、北米
	(Train 3)	380	2021年 (建設中)		アジア
	Donggi Senoro LNG	200	2015年	DSLNG(Sulawesi LNG Development(三菱商事 75%, KOGAS 25%)59.9%, Pertamina Hulu Energi 29%, Medco LNG Indonesia 11.1%)	アジア
ロシア	Sakhalin 2 (Train 1, 2)	960	2009年	Sakhaline Energy Investment Company Ltd (Gazprom 50%+1株, Shell 27.5%-1株, 三井物産 12.5%, 三菱商事 10%)	アジア
	(Train 3)	約500	計画中		N.A.
アメリカ	Cameron LNG, (Train 1-3) (既存受入基地に併 設)	1,200 ^{※2}	2019年	Cameron LNG (Sempra 50.2%, Total 16.6%, JLI(三菱商事70%, 日本郵船30%) 16.6%, 三井物産 16.6%)	アジア
イラク	SGU (South Gas Utilization Project)	N.A.	計画中	Basra Gas Company (South Gas 51%, Shell 44%, 三菱商事5%)	N.A.
カナダ	LNG Canada (Train 1, 2)	1,400	2020年代中頃 (建設中)	Shell 40%, Petronas 25%, PetroChina 15%, 三菱商事 15%, KOGAS 5%	アジア

※1 PEW(PE Wheatstone)に99.90%出資するPE(Pan Pacific Energy)に、39.70%出資。

※2 DOE輸出許可 1,495万トン。

三菱商事の LNG 契約

輸出国	プロジェクト	契約期間 (契約年数)	契約数量 (万トン/年)	受渡条件
オマーン [※]	Qalhat LNG (Train 3)	2006～2020年 (15年)	80	FOB
アメリカ	Cameron LNG	2018～2038年 (20年)	400	液化加工契約

※購入したLNGはセルト社(東京電力と三菱商事が共同で設立)にEx-shipで販売。

セルト社は、需給状況に応じて東京電力が三菱商事にEx-shipで供給する。

三菱商事が出資する受入基地

国名	基地名	出資者	受入能力 (万トン/年)	操業開始
バングラデシュ	Summit LNG (FSRU)	Summit LNG Terminal (Summit 75%, 三菱商事 25%)	350	2019年

(3) 今後の戦略

天然ガス事業は三菱商事の収益の柱として期待されている事業である。

2018年10月、三菱商事はShell、Petronas、PetroChina、KOGASとともにカナダのブリティッシュ・コロンビア州 Kitimat 港近くの LNG Canada プロジェクトへの最終投資決定 (FID) を行った。本プロジェクトの生産能力年間1,400万トンのうち、三菱商事の持分は年間210万トンで、日本を中心としたアジアの需要家へ供給予定である。

また、2020年8月、米国ルイジアナ州のCameron LNGがLNG生産の全面商業稼働を開始した。本プロジェクトの生産能力は年間1,200万トンである。日本郵船との合弁事業会社Japan LNG Investment社を通じて液化事業会社Cameron LNG社に出資する他、Cameron LNG社と年間400万トンの液化委託契約を締結している。

その他、グローバルガスマーケティングの拡大と販売力の強化として、三菱商事100%出資のLNG販売会社Diamond Gas International (DGI社)を2013年に設立し、三菱商事名義LNGのマーケティングに加えて、LNGの需要増やLNG新規導入国の増加が見込まれるアジア新興国をはじめとした地域において、燃料調達からFSRU、LNG受入基地や発電まで一貫して取り組むことで需要創出型のマーケティングを行っている。

LNG CanadaからのLNG販売に関しDGI社は、東邦ガスとの間で2024年度から15年間に亘り年間約30万トン、東京ガスとの間で2026年度から13年間に亘り年間約60万トン、JERAとの間で2024年度から15年間に亘り年間約120万トンの引き取りについて合意済みである。また、Cameron LNGからのLNG販売に関しては、東邦ガスとの間で生産開始から20年間に亘り年間約20万トンの長期LNG売買契約を締結済みであり、さらにJERA、東北電力、東京ガスとの間においてもLNGの引取りに関して合意済みである。

2018年8月には、Summit LNG Terminal社の株式の25%を取得し、バングラデシュでのFSRUを利用したLNG受入基地事業に参画した。本事業は、Summit LNG Terminal社がバングラデシュ、Moheshkhali島6kmの沖合にFSRUを設置し、国営石油エネルギー会社Petrobangla社が調達する年間350万トン規模のLNGを受け入れ、気化サービスを提供するもので、2019年4月に操業を開始した。また、2020年7月、DGI社は中国向けLNGとして同社初となる売買契約を中国のエネルギー企業である広東省能源集団と締結した。

今後も既存事業の基盤強化や建設中案件の着実な立ち上げに加え、競争力を有する新規プロジェクトへの参画、販売力強化、新興市場の開拓等を通じて、LNG事業の拡大を目指している。